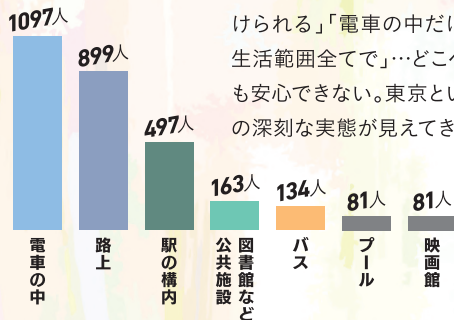


痴漢被害の実態

日本共産党が2020年8月、東京でおこなった痴漢被害のアンケート(1435人)からは深刻な被害の実態が浮き彫りになりました。

01 あらゆる生活空間で



「買い物にただ来てあつとつけられる」「電車の中だけでなく生活範囲全てで」…どこへ行っても安心できない。東京という都市の深刻な実態が見えてきた。

02 何度も何度も

「覚えきれないほど日常的にある」「高校3年間の行き帰り、ほぼ毎日」…一人の人が人生の中で何度も何度も被害にあっている。

小学生のとき

中学生のとき

高校通学時

大学で

就職して

通勤時

買い物で



03 暴力、脅し、盗撮も

刑法に抵触するもの、その未遂とみられるものも多数寄せられた。「怖かった」「気持ち悪かった」「悔しい」「尊厳を踏みにじられた」…深い傷が。

「静かにしろ」と耳元で

なく殴られた

背後から抱きつかれ口を塞がれた

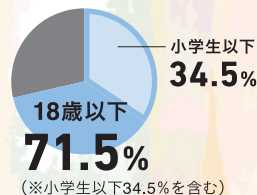
精液をかけられた

盗撮された

腹部にカッターをあてられた

04 子どもがターゲットに

初めて被害を受けた年齢は、18歳以下が7割。「子ども・未成年への性暴力」として特別な対策も急務だ。



05 「何もできなかった」

被害にあった時どうしたか

5.2%

駅員に通報した

「周りが助けてくれた」は6.4%。孤立し、ほとんど声を上げられない実態も浮かんだ。警察や公的機関に通報したことがある人は5.3%と合わせて少数だった。

何もできなかった
54.8%



詳しい結果はこちらから→

